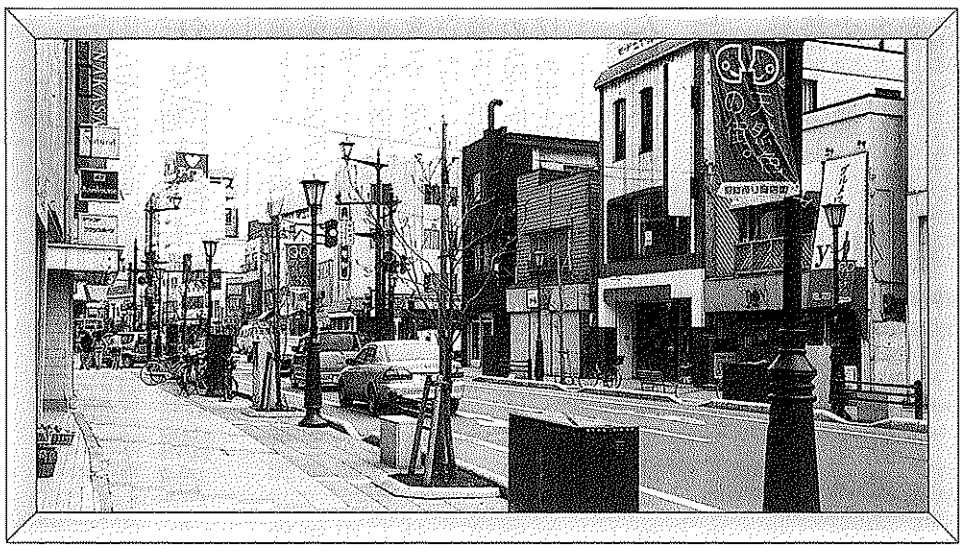
街の活力は
自立と創造から

あのまちこの街

No. 123

■編　集■ 北海道商店街振興組合連合会
〔あのまちこの街 編集委員会〕
札幌市中央区北１条西２丁目



「天然色の街。」

豪雪の街でアーケード撤去
青空と街路樹で開放感演出

昭和通り商店街
（青森市）

太陽をイメージしたリンクバナー

創意工夫でイベントの数々
ホームページで情報発信

空が見える街への決断

青森市中心部は、「アーケードの街」といった感がある。青森市は日本でも代表的な豪雪の都市。青森駅前から市街地中心を貫く新町通りをはじめ、多くの商店街が長い片蓋アーケードを設置する。

その中で異彩を放っているのが今回紹介する昭和通り商店街である。

昭和通りには、現在アーケードがない。一方、青森市中心部の商店街の多くで空き店舗が目立つ中で、昭和通りには空き店舗が少ない。

実は、かつてはアーケードがあった。それが老朽化し、かつ舗道ブロックに凹凸があり歩き難いという状態になった。

消防からアーケードの補修を勧告されても予算がない。新設には当然莫大な金がかかるし、撤去にもそれなりの費用が要る。数年にわたる粘り強い要望活動の結果、県が舗道を修理し、アーケードの撤去もする、ということになった。

実はこの間、商店街の側でも複数の案があった。常識外れとも言われた「アーケード撤去」を決断した考え方は、資金面の他、以下のようなものである。

・アーケードは「暗い」イメージもある。また、ハトやネコの死骸が溜まると不衛生である。

・融雪舗道とすることで、豪雪にある程度対処できる。融雪舗道は都市防災上の意味もある。

・店舗二階外装が丸見えになるが、「顔がはっきりする」とも言える。

・空が見えることで、開放感を演出できる。

商店主たちは、積雪地でアーケードを撤去した事例を研究し、日々会議を重ねて検討した。

平成十三年秋、ついにアーケード撤去。県による電線地中化・融雪舗道整備の工事は、十四年秋完成した。

この間、工事の影響で、多くの店で売上が減少した。また、夜間の工事のため、騒音や振動が大きな問題となった。商店街としても、工期の短縮を何度も要望し、また工事に協力した。

こうして、十四年十月、「オープニングセレモニー」開催に至った。

新生昭和通り商店街のキャッチフレーズは「天然色の街。」。天然色とは、青空・街路樹・明るい灰色の舗道などのイメージを指している。街灯に吊すフラッグは緑を基調としている。

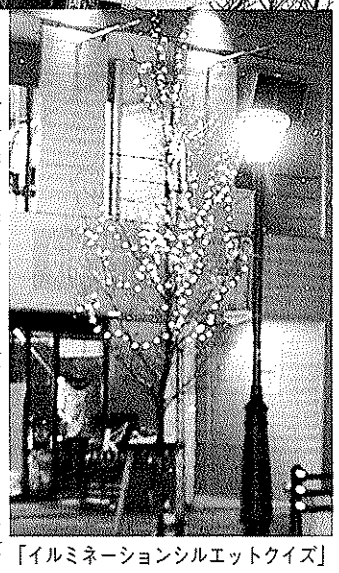
なお、季節により、あるいはイベント時には三十六本の街路樹全てをイルミネーションで飾り、夜間も視覚に訴える。

店の側が緊張感を持つことにもなる。

昨年十月には、昭和通り商店街のメンバーが中心になり、「大地の感謝祭・チャリティ青空市場」を実施した。かつて栄えた「古川市場」の賑わいを再現するというもので、中心市街地全体のイベントでもある。昭和通りに並行する「いろは通り」で、県内のJAがリンゴに代表される青森の野菜・果実をテント販売。あわせて、青森の農民を描き続けた画家常田健氏の個展「大地の絵筆」を開催。

また、「街路完成一周年記念『江戸太神楽』」、「街路完成一周年記念『イルミネーションシルエットクイズ』」、「街路完成二周年記念『猿獅子舞』」等、視覚に訴えるイベントを毎年新たに打ち出している。

フラッグは緑を基調に両ふちが赤


「イルミネーションシルエットクイズ」

ユニークなイベント

ハード整備終了後も、独特の事業に取り組んで行く。

「レシートウォークラリー」は、期間中に、別々の二店舗で合計千円以上買い物し、レシートを用紙に貼って応募するもの。一軒目で客に応募用紙を渡す際、「二枚目については、○○で××を買うといい」といった助言をするよう努めているという。これで横の連携が強化される。このウォークラリーは、五百円の共通商品券まで含めると、当選確率が三割近いので、「当たる」というイメージが定着するという。

「正月ディスプレイ」は特にユニークなイベントである。十二月末から一月半ばまで、各個店の店頭あるいはショーウインドーで、正月にふさわしい展示や飾り付けを行う。これを審査員（県立郷土館の美術系学芸員など）による審査と一般投票で点数を競う。一般投票者には抽選で共通商品券を贈る。個店の存在をアピールする効果が当然あるが、市民の視線を店頭に向けさせることで、店の側が緊張感を持つことにもなる。

昨年十月には、昭和通り商店街のメンバーが中心になり、「大地の感謝祭・チャリティ青空市場」を実施した。かつて栄えた「古川市場」の賑わいを再現するというもので、中心市街地全体のイベントでもある。昭和通りに並行する「いろは通り」で、県内のJAがリンゴに代表される青森の野菜・果実をテント販売。あわせて、青森の農民を描き続けた画家常田健氏の個展「大地の絵筆」を開催。

また、「街路完成一周年記念『江戸太神楽』」、「街路完成一周年記念『イルミネーションシルエットクイズ』」、「街路完成二周年記念『猿獅子舞』」等、視覚に訴えるイベントを毎年新たに打ち出している。

ホームページはまめに更新

昭和通り商店街のホームページは、よく整理されわかりやすく、情報も豊富である。

立ち上げの初期にはプロに委託したが、現在の更新作業は会員である商店主等が行っている。

表紙には、「最新情報」を掲示。可能な限り最新のものとするよう高頻度で更新する。

マップから、あるいは業種別に、個店情報を検索できる。多くの個店につき、数枚の写真入りで店舗と商品を紹介。昭和通りでは個店自前のホームページも多いが、当然ここにリンクされている。

「マル得情報」では、個店のイベントや新商品といった情報を随時掲載。まめに閲覧する動機付けになる。

他には、「イベントアルバム」「駐車場や貸しホールの案内」「情報誌のダウンロードなど」、商店街のホームページとしての内容をほぼ網羅しているといえる。

「みんなのホール」

空き店舗対策として始めた「みんなのホール」は、小店舗程度の規模であるが、商店街活性化の拠点施設とされる。

貸館事業としては会員には約半額で。パソコンやカラープリンターが設置され、各店の販売促進にも利用できる。

例えば「コーヒーの入れ方教室」など、各店が講師となって客向けの勉強会を開くこともある。

「正月ディスプレイ」前回の最優秀賞

よく議論して実行する

市中心部には、それほどの定住人口はない。そこに住んでいない人に来てもらう何かが必要になる。何もしなければ廃れる。そのために検討を重ねているという。

昭和通りの特長の一つは、「結束力」だという。「みんなで」アイデアを出し、「みんなで」議論して方向を出す。そして以下、昭和通りを含む青森市中心商店街（七商店街）合同の事業を簡単に紹介する。

「宅配サービス」は福祉サービスの一環として、買い物品の宅配事業を始めたもので、料金は青森市内で三百円から。加盟店に午後四時までに申し込むと当日配達される。

「縄文スタンプ」は青森中心街区スタンプ事業協同組合で扱う。三内丸山遺跡出土の土偶がシンボル。加盟店で百円買い上げごとにスタンプ一枚進呈。満冊四百五十枚で五百円の買い物ができる。「スタンプ二倍セール」「倍額引き取り」など、売上増加目指し試行錯誤している。

「無料駐車券」は、加盟店で二千円以上お買い上げのお客に、中心商店街共通駐車場の一時間無料駐車券を出している。利用できる共通駐車場は、二十九カ所、三千二百台の駐車が可能。

中心部合同の取り組み

よく検証してまた実行に移す。これは経営論で言う「全員参加」や「PDCAサイクル」に通じる。

なお、情報誌「みんながたより」は月刊でA4両面カラー印刷。写真入りのイベントの報告などが多い。全会員に配布し、情報共有化のツールとなっている。

「みんなのホール」　右側のOA機器も活用

「大地の感謝祭」

青森は、古代より現在まで、北海道と関係が深い。JR函館駅から青森駅まで二時間程度、新千歳空港から青森空港まで直行便もある。

青森市は今年四月、隣接する浪岡町と合併、新たな青森市としてスタートした。

近く新幹線建設の槌音も聞こえてくる。

三内丸山遺跡については説明を要しないが、青森駅からバスで三十分ほどの近さ。市中心部の県立郷土館をはじめ、市内には棟方志功記念館、近代文学館といった観光資源も数多くある。

青森駅西側は、いくつもの有力商店街が縦横に交差する「商店街の激戦区」。その中で、豪雪地帯にもかかわらずアーケードを撤去したのが昭和通り商店街である。

ハードな競争に勝ち抜くために議論を徹して行動する姿を紹介する。

・・・・・・・・・

名　称　昭和通り振興会
事務局所在地　青森市古川一丁目十六―一
電　話　〇一七―七三―二五一五
会　長　丸山　登　氏（手芸店経営・青森市商店街連盟副会長）
会員数　八十人
ホームページ　http://www.showadori.net/